

令和 7 年

# 第13回教育委員会会議録

(開会 令和 7 年12月18日)

(閉会 令和 7 年12月18日)

岐阜県可児市教育委員会

令和7年12月18日午後2時00分開会

会場：市役所4階第3会議室

### 出席委員

堀部好彦君（教育長）

小栗照代君（教育委員）

瀬川登美子君（教育委員）

梶田知靖君（教育委員）

長井知子君（教育委員）

### 説明のために出席した者

水野伸治君（事務局長）

木村正男君（学校教育課長）

石黒智子君（教育研究所主任指導主事）

青木裕介君（教育研究所指導主事）

可児浩之君（保育課長）

下園芳明君（教育総務課長）

後藤道広君（学校給食センター所長）

古野 寿君（学校教育課指導主事）

只腰知子君（学校教育課学校支援係長）

### 出席委員会事務局職員

木村雄大君（教育総務課総務係長）

伊藤師啓君（教育総務課総務係）

### 日程及び審議結果

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

4 教育委員報告

5 議 事

①議案第35号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）

6 報告事項

・可児市子ども・子育て支援事業計画（第3期）の改定について

7 各課所管事項

8 委員からの提案協議事項

9 その他

10 閉 会

### 開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） 皆さん、こんにちは。  
これから令和 7 年第 13 回教育委員会会議を開催させていただきます。  
定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということによりよろしくお願いします。

### 前回会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前回の会議録の承認について。
- 教育総務課長（下園芳明君） 前回の会議録に変更はございません。以上です。
- 教育長（堀部好彦君） 変更なしということで、よろしくお願いします。

### 教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） 教育長報告でございます。  
大きく 2 点お願いをします。  
1 点目ですが、11 月 27 日、総合会館で岐阜県特別支援学級・通級指導教室設置校校長会研究総会が行われました。これは毎年県内で持ち回りで開催されるものでして、今年度は可児市が会場ということで、私も最初挨拶をさせていただきました。  
お集まりの方々には、特別支援学級が設置してある学校の校長先生、また通級指導教室が設置してある学校の校長先生になります。オンラインでも参加をされている方がいらっしゃるって、オンラインと参集型のハイブリッド開催ということで、対象の校長先生というのは、今どき特別支援学級がない学校だとか、通級指導教室がない学校というのは珍しくなってきましたので、県内の小・中学校の校長先生のほとんどが御参加ということなんです。  
これから挨拶の中身について、お話をさせていただきたいんですけども、それをここで話しさせていただく意図としましては、特別支援教育に関しての関心は本当に高まってきている昨今ですので、可児市においても同じような状況が見られます。関心が高くなっています。先生方、保護者もね。ですので、私はこんな問題が、課題があるんじゃないかということをお話でさせていただいたものですから、教育委員の皆さんの特別支援教育についての知見をより高めていただきたいとか、今後の勉強のきっかけにさせていただきたいということで、挨拶の中身を共有したいと思います。  
まず挨拶で申し上げたのは、可児市の実態でございます。特別支援学級の在籍者数が増えていますよ、通級指導教室に通っている子たちも増えていますよということをお話ししました。可児市の実態でいきますと、平成 23 年度に初めて特別支援学級の在籍者数が 100 名を超えました。その後、今年度は何と 436 人です。4 倍以上になっているわけです。そして、通級指導教室の在籍者数も年々増加傾向で、今年度は 402 名ということで、合わせて 800 人以上の子たちが特別支援教育の中でいろいろ指導を受けているということになるわけです。  
そういったことは、可児市だけじゃなくてほかの市町村でも同じですよという話をさせていただきながら、増加をする中でまず大切にしないではいけないのは、幼稚園・

保育園から小学校に上がるときに、そういった特性のある子たちの情報をきちっと小学校に伝えていく。情報が共有されることが大切だろうと。同時に、小学校から中学校へ上がるときにも、そういった特性を抱えた子たちの情報、状況、指導の状況も含めて、そういったものがきちっと共有されることが大切ですよねと、何百人もいるんだからという話をさせていただきながら、さらにということでこんな課題があるんじゃないかということなのです。

初めて特別支援学級の担当をやりますという先生、初めて通級指導教室の担当をやりますという先生が増えているということですね。学級数が増えている、在籍者数が増えているということなので、そういった特別支援教育に携わる方々の指導力を、初めてやりますという方々が多いので、そういった方々の指導力を高めていくという仕組み、研修が必要でしょうということをお話ししました。

どの校長先生も、特別支援学級が増えるので、特別支援教育に堪能な先生を下さいということ人事の要望でされるんですけれども、そのお気持ちも分かるんですけども、まず自分の学校でそういった技量のある方々、そういった特別支援教育を志す方々を自校で育ててくださいというのも教育委員会としては申し上げたいところで、大きな課題だなと思っています。

以上申し上げたとおり、特別支援教育については様々な課題がありますので、私の今の挨拶の共有ということで申し上げたこの中身について御理解いただくとともに、何かの折には特別支援教育について積極的に勉強されるといいのではないかと考えております。これが1点目です。

2点目です。

このところ、様々な表彰式に参加をさせていただいております。市の功労者表彰だとか、教育委員会表彰だとか、ほかにも可児市文芸祭表彰式とか、それから可児市美術展の表彰式だとか、いっぱい表彰式に参加をさせていただいて、その中でも、やはりとりわけ印象深いのは私どもの可児市教育委員会表彰だったなということに改めて思います。

この表彰につきましては、教育総務課が本当に総力を挙げて、表彰の対象者の推薦を募り、そして推薦された方々の審査を慎重に行い、この会議での承認を経て当日を迎えてくださいました。本当に丁寧な取組だったと思います。当日の会の進行につきましても、細かな配慮がいろいろなところで行き届いていて、参加された方々が気持ちよく表彰式を迎えられたんじゃないかと思っています。この点、本当にまず感謝申し上げます。

そして、表彰式の様子を見ていてうれしかったのは、これまでの規定で表彰された方々、生徒、子供たち、そして昨年度から始めた「笑顔の“もと”」奨励賞を受けた子供たち、その様子を見ていて本当にうれしそうだったし、そして会の後に集まって、写真を改めて自分たちだけで撮ったりだとかというような様子を見ていて、本当にこの表彰式をやってよかったということを思っています。

加えて、会場におられたある校長先生と話をしていたんですけども、校長先生のほうから、本当にありがとうございますと、親さんも子供も喜んでおりますと。「笑顔の“もと”」奨励賞について、そのようにお話をしてくださいました。これも大変ありがたいなと思っています。

さらにさらに加えてなんですけれども、うれしかったのは、これもある校長先生が教えてくれたことです。この「笑顔の“もと”」奨励賞で受賞した女子生徒が、生活ノート（日記）に、毎日担任とのやり取りをしているあの生活ノートに、この表彰を受けて本当にうれしかったということと、推薦をしていただいてありがとうございましたということ、とてもうれしかったので、仲間との関わりのところで褒めてもらったということで、卒業まで中3なので僅かなんだけど、仲間との関わりを頑張りたいという決意を書いてくれていたようです。

そして、その日記の最後のほうには、これまでの規定で表彰されたスポーツ等で頑張っていた子、大会で優秀な成績を収めた子たち、その子たちの様子を見て、何かその子は刺激を受けたようで、自分の特技を伸ばすために日々努力していることってすごいな、目標を持って努力することってすごいなということで、自分も目標を持って頑張っていきたいということがつづられていたそうです。なるほど、この表彰式の値打ちは、表彰されたことで喜ぶ、うれしいんだけど、それだけじゃなくて、お互いに表彰された子同士で何か刺激し合うものもあるのかなんていうことも思いました。

いずれにせよ、今回のこの表彰で改めて思ったのは、この表彰式を通して「笑顔の“もと”」の理念が広まっているということを実感したことが本当にうれしかったことです。

そして、さらには生活ノートを私に校長先生が紹介をしてくださった、この経緯を思うと、私すばらしいなと思うですね。何で校長先生がその生活ノートを知っているのか。それは、担任の先生がその生活ノートを見て、赤ペンを入れたり、アンダーラインを引いていつも返しているんだけど、スルーしなかった。スルーしてその子にまた返ただけじゃなくて、こんな日記がありましたよということを誰かに伝えて、多分学年主任だと思うんです。そうしたら、学年主任が教務主任や教頭や校長に知らせていった。そういった経緯の中で私のところに届いたということと思うと、その担任の先生が「笑顔の“もと”」奨励賞のこと、「笑顔の“もと”」のことを本当に大切に考えてくださっているんだという、そこも想像力を働かせて感じて本当にうれしかったです。

以上2点、報告をさせていただきました。

## 教育委員報告

○ 教育長（堀部好彦君） では、教育委員報告に入ります。

○ 教育委員（梶田知靖君） こんにちは。

私のほうから2点報告をさせていただきます。

11月25日に、可茂地区市町村教育委員研修会へ出席をさせていただきました。こちらでは、新たな地域クラブ活動の在り方についてということで講演を聞かせていただいたんですけれども、この講演を聞いて、また1つちょっと勉強させていただいたのは、以前クラブ活動は地域移行という言葉になったと思うんですけれども、「地域移行」から「地域展開」という名称に変更されたということをお聞きしまして、この点でちょっと勉強になりました。

令和4年12月にクラブ活動というのが地域移行になるということがあったんですけれども、そこがどんなふうに変ったかということ、当日いただいたこの資料を読ませて

いただきます。

学校と地域を二項対立で捉えるのではなく、将来、学校内の人的・物的資源によって運営されてきた活動を広く地域に開き、地域全体で支えていくというコンセプトを明らかにするとともに、活動内容等についても、学校部活動における部活動指導員等の配置等を意味する地域連携よりもさらに取組を進め、地域に存在する人的・物的資源を活用しながら、地域全体で支えることによって可能となる新たな価値を創出し、より豊かで幅広い活動を可能とすることを目指していくという意図を込めて、「地域移行」から「地域展開」という名称へ変更することとするという紹介がありました。

今まで学校部活動に参加していなかった運動が苦手な子供や、学校になじめない子供、支援、配慮が必要な子供を含めて、広く地域で活動できるように留意することも重要であるということがこの資料に書いてありますけれども、地域移行から地域展開と大きく変わったということで、可児市においては、文化スポーツ課を中心として中学校の部活動については進めていただいておりますので、教育委員会としても安心できるかなと思っております。

2点目は、12月7日に教育委員会表彰式のほうへ出席をさせていただきました。こちらでは、表彰者の中には懐かしい伊藤さんのお顔も見ることができまして、本当にお元気そうでしたのでよかったです。

この表彰の中で一番私の個人的印象に残ったことなんですけれども、市長の祝辞の中でお話しされていた、市長が子供の頃に、お母さんに何で私をしからなかったのということをお聞きしたというお話がすごい印象に残ってしまっていて、お母さんが、私が産んだ子だからだよというその答えを聞いたときに私も、私は自分の立場は父親なんですけれども、本当に子を持つ母親って本当に強いなということを非常に思いました。このようなお話をこの表彰式の中でお子さんが聞いていて、こういった保護者の方や子供たちがすくすくと育つ可児市になればいいなと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

本当にあの市長の言葉は印象的でした。私も市長に、あの祝辞について話題にしたときに、あの言葉はきっと皆さんに刺さりましたよとお話ししたんですけど、やっぱりそうでしたよね。梶田委員言われるとおり、私もそう思いました。ありがとうございます。

○ **教育委員（小栗照代君）** こんにちは。

まず、同じく可児市教育委員会表彰式に出させていただきました。やはり毎年大変多くの子供たちの活躍を拝見させていただいたり、それからこの可児市で活躍してくださっている大人の方たち、こういった方々があるからこそ、子供たちもすくすくと可児市でいろいろな実績をつくって活躍してくださるんだなということで、本当にありがたいなと思いました。

続いて、教育委員としての活動ではないんですけれども、東明小学校の学習ボランティアに応募をして、ちょっと参加をさせていただきました。

私が参加したのは九九の授業でお手伝いをお願いしますということで、私含めて3人のボランティアの方でお手伝いをさせていただきました。子供たちが九九を一の段から九の段まで、どの段でもいいんですけど、上から下まで言えたらシール1個、下から上まで言えたらシール1個、ばらばらで言えたらシール1個ということで、ですから全部

で27かな。1個のところは3つずつシール、3回ずつ言わなきゃいけないということで、それを聞いてあげて、すらすら言えたらシールをあげるという役をやってきたんですけども、子供たちも本当に3人のところに列でいっぱい並んで、ちゃんと言ってシールもらったら、すごい体で喜んで、やったーという感じでまた後ろに並んで、次の段を言うというような形。すらすら言える子もあれば、何回やっても1時間に1個もシールもらえなかった子もいるんですけども、でもみんなで一生懸命やってくれていて、ほほ笑ましく、私たちボランティアは元気もらったねと言いながら帰ってきました。先生方がこれを今まで御自身方でやっていらっしゃったということを見ると、大変な先生たちのお仕事だというのはもちろん頭では分かっていたんですけど、実際にこういったことを経験して、これを先生たちが全部やっていらっしゃったのかということを見ると、ただ九九を1時間一緒にやっただけでも、ひしひしと自分の体で大変さを感じることができました。

1クラスで20人だとして、今計算をすると、全員が1回でクリアしたとしても、多分1,600回以上先生は聞かなければいけなかったんだなというところで、計算しただけでもすごいなと思いました。

学校運営協議会のほうでも学習ボランティアのことをお話しされて、ぜひお願いしますと依頼をしたところ、各地区センターの方々がお便りに書いてあげるよということで募集を書いてくださって、今後ミシンの操作の学習ボランティアとか、そろばんの学習ボランティアというのがあるので、この辺りを一緒に募集をして、地域の方々の御協力をいただきたいですというようなお話をしました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

大変うれしい話で、今の学習ボランティア、本当にお疲れさまです。ありがとうございます。

私、最後の学級担任、39歳のときでしたけど、小学校2年生でしたので、九九のことで苦労したのは私もそうでした。思い出しました。

コミュニティ・スクールの取組の一環で、今のボランティアの活動があるということですよ。本当にすばらしいと思って、ありがたいです。その九九の学習ボランティアの取組で育まれていくものというのは、九九の力だけではなくて、ふだん褒めてもらっていないような、先生とは違う地域の方々に褒めてもらったということで自信や自己肯定感が育まれている。そういったようなことが、コミュニティ・スクールの取組で育まれているんじゃないかと思って、すばらしいと思っています。ありがとうございます。

○ **教育委員（長井知子君）** よろしくをお願いします。

私からは2点お話しさせていただきます。

1つは、12月初旬に可児市教育委員会表彰式に参加させていただきました。そこで1人、広見小学校でずっと読み聞かせのボランティアをしてくださっていた方が今回図書館の読み聞かせで表彰されていらっしゃって、本当に素直にすごいなという思いと、人としての在り方を何か学ばせていただきました。

あと、学校にちょっと行く時間がなかったので、今回旭小学校のほうにお電話させていただき、状況をお伺いしました。11月の下旬に修学旅行で、京都・奈良に行ってきたということで、ちょうど海外からの旅行者が激減したあの時期と重なったようで、例年

と思うと、スムーズに移動できたということをおっしゃっていました。テレビとかで修学旅行先を変更する学校もあると流れていましたけど、特にそういうことは考えていないということもおっしゃっていました。

あと、旭小学校はもともと不登校の子は少ないほうなんですけれども、今は不登校の子はいないということでした。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

電話で学校の様子も聞いていただいているということで、ありがとうございます。

修学旅行については、本当におっしゃるとおりで、観光客激増の中、学習活動がなかなか成立しないんじゃないかということで、行き先を考えていくような学校があると私も聞いているんですけれども、可児市においては、今のところそういったところまで考えているところはないようですけれども、今後変わっていくかもしれません。ありがとうございます。

○ **教育委員（瀬川登美子君）** こんにちは。よろしくお願いします。

私も2点あります。

梶田委員と同じく、11月25日に可茂地区市町村教育委員研修会に参加してきました。実は、講演をさせていただいた先生は小学校2年生のときの担任の先生でした。特別な思いで講演を聞かせていただいて、何かちょっとふつふつとするものもありました。一生懸命ずっと部活を担ってくださっていたんだなと思うと、本当に特別な思いがしました。現状の説明を伺って、なおかつ今まだ私も現役の子供がおりますので、保護者の方からの地域移行、地域展開に関する情報もいろいろお聞きする場面も多いですが、基本的に、やっぱり生徒を中心に地域と先生方と保護者の上手なトライアングルがうまく実現されるようになるといいなと思っています。

ホームページ上では、いろいろな報道だとか岐阜県からの案内だとかは、見ればすぐ分かるようなものがたくさんあるんですけれども、やはり丁寧な説明等、周知等、広報等というのがやっぱり必要なんじゃないかと感じました。

2点目は、帷子小学校が学校のお便りをいつも送ってくださるんですけれども、その中で校長先生の締めの一言がすごく響いたので、紹介させていただきたいなと思います。ホームページ上だと保護がかかっている、一般の方はあまり御覧になれなくて、委員の皆さんは配付資料で後で見られると思うんですけれども、抜粋してご紹介します。

子供との望ましい関係の中で、情を共有し、先生は自分のことを見てくれていると実感できたとき、「自ら求め 思いやり つくりだす子」、これは小学校の教育目標だそうなんですけれども、に近づき、笑顔と元気にあふれた学校ができと思っています。私たちは、常に子供たちへの言葉や態度を見直さなければならないと思っています。子供たちにとって私たちの言葉などは重く、後々子供たちの人生の礎や羅針盤となることを肝に銘じ、全教職員で取り組んでいきますというふうに締められているんですけれども、内容は、先生の先生になりたいなという気持ちを思い起こさせてくれた先生方の紹介も載っているんですけれども、こういった思いのある先生と共に学びを共有できる帷子小学校の皆さんはとても幸せなんじゃないかなと思いました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

部活につきまして、地域移行ではなく地域展開であるという、この理念に合うのは、

まさに私はコミュニティ・スクールの理念と同じだと思います。瀬川委員がおっしゃったように、トライアングルと言われたんだけど、学校、保護者、子供、この3つがうまくかみ合って子供たちが育つようにというのは、この考え方というのはコミュニティ・スクールと同じですね。

ですので、可児市においては、先ほどの小栗委員のお話にもあったように、そういった実践が行われているということ、それから梶田委員も言っておられましたけれども、文化スポーツ課のリードで地域や保護者に上手に周知をしながら、それから願いを酌み取りながら、子供たちのためにとということで、うまく地域展開がなされているのではないかなど、課題ももちろんあるんだけど、そんなことを思っています。

それから、中村校長の文章については私も読ませていただいております。彼らしい文章で、情のある校長だなあとということを常々思っているんだけど、ああいった見方で人間に寄り添える校長なので、職員への寄り添いも、子供たちへの寄り添いも、同じ人間としてやってみえると思うんですね。そういった日々、日頃の考えがにじみ出る文章だったなど。

- 教育委員（瀬川登美子君） そうですね。
- 教育長（堀部好彦君） 私も読ませていただきました。ありがとうございました。

#### 議事

- 教育長（堀部好彦君） では、議事に入りたいと思います。
- 事務局長（水野伸治君） よろしくお願ひします。

それでは、議案書を御覧ください。

表紙の裏ページの目次のとおりです。

本日は議案が1件です。

議案第35号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、よろしくお願ひいたします。

- 教育長（堀部好彦君） 本日議事の議案第35号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、その他の不登校児童生徒の状況について及び児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録についてに関しては、意思形成に係る案件や個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、これらの件については非公開とします。

#### 報告事項

- 教育長（堀部好彦君） それでは、報告事項、可児市子ども・子育て支援事業計画（第3期）の改定についてを議題とします。
- 保育課長（可児浩之君） よろしくお願ひします。

別紙2の資料を御覧ください。

令和7年4月に策定しました第3期子ども・子育て支援事業計画について、計画を改定しますので、その報告でございます。

資料1ページの改定の理由ですが、可児市には、多くの外国籍児童が在住しており、就園者の約半数が認可外保育施設を利用している実態があります。これまで認可外保育施設は、子ども・子育て支援事業計画に含めず、認可園の量の見込み等で計画を策定しています。

ただ、そうした中で、中段の表にあるとおり、外国籍児童数の増加に伴って、認可外保育施設に入れない児童の方が出てきている状況があるということ。

それから、外国籍児童の就園率の表にあるとおり、日本人は当然90%以上の就園率がありますが、3歳以上の外国籍児童は70%前後で、非常に低い状況であることが分かってきました。

こうした状況を踏まえて、子ども・子育て支援事業計画にも認可外保育施設を改めて追加し、量の見込みをする必要があると判断しまして、今回計画を改定するものです。

次に、改定のポイントですが、具体的な変更箇所は、まず保育事業につきましては3歳から5歳、それからゼロ歳から2歳について、認可外保育施設を含めて、量の見込みを追加しました。

次に、幼稚園の3歳から5歳の教育事業については、幼稚園から保育園へ保育ニーズの移行が加速化しており、もともと計画で見込んでいた量以上に、保育園を選択する方が増加しているという状況があったので、教育事業の3歳から5歳の量の見込みを下方修正しました。

具体的な計画数値の改定につきましては、3ページから6ページまでに記載していますが、赤字の部分が計画の改定数字となりますので、また参考に御覧いただければと思います。この計画の改定内容につきましては、9月に子ども・子育て会議に説明させていただき、委員の意見をお聞きしましたが、特段意見はありませんでした。

今後のスケジュールですが、資料の2ページを御覧ください。

1月にパブリックコメントを実施させていただき、その意見を基に必要な改定を行いまして、2月に岐阜県と協議し、最終的に3月に計画の公表を予定しております。

説明は以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明について、御質問、御意見等ありますでしょうか。

○ **教育委員（長井知子君）** 外国籍児童の就園率が6割、7割とありますけれども、これはやっぱりお国柄といった文化の違いとか、そういうことですか。

○ **保育課長（可児浩之君）** まず認可外保育施設に行くというのはやはり言葉の問題、一定数は認可園に行って、日本人の子供の中に入って日本語を覚えていきますが、認可園には通訳もないものですから、子供のことを考えて、母国語が通じる認可外保育施設を選ばれる保護者の方がすごく多いんです。今までは何とか認可外保育施設で、受け入れができていたが、今は、人数が増えていますので、認可外保育施設を希望しても入れない状況があります。

もともと認可外保育施設に何人就園しているかというのは、認可外保育施設は県の管轄のため、私どももなかなか把握ができていなかったんですけども、県に確認して、実態が改めて分かってきたという中で、やはり外国籍児童の方も就学前に集団生活と、日本語に触れていただくと、小学校に上がったときに、言葉の問題でのトラブルが少な

くなるのではないかと考え、より就園していただけるような形が必要だということで今回計画を改定するものです。

- 教育委員（長井知子君） 分かりました。ありがとうございます。
- 教育長（堀部好彦君） ほか、どうでしょうか。

〔挙手する者なし〕

じゃあ、私から幾つか教えていただきたいんですけども、1つ目ですが、この事業計画、第3期の改定についてということなんですけれど、第3期はいつまで。

- 保育課長（可児浩之君） 5年間の計画になりますので、令和11年までです。今年が初年度になります。
- 教育長（堀部好彦君） 今年が初年度ということで、令和7年から令和11年ですね。分かりました。ありがとうございます。

この計画改定の背景等の一番最初のこの2行なんですけれど、ここに書いてある就園者の約半数とあるのは、これは市内の就園者全てということですか。外国籍児童の就園者も含めたということ。

- 保育課長（可児浩之君） 外国籍児童の就園者の半数です。半数は認可外保育施設に行っており、もう半数は認可園に行っています。
- 教育長（堀部好彦君） そうすると、外国籍の幼児に特化したというか、外国籍の幼児のために改定をするということでしょうか。
- 保育課長（可児浩之君） はい。主な理由はそれです。
- 教育長（堀部好彦君） 主な理由はということですね。

これ改めてなんですけれど、保育園のニーズが高まっているというのは、これも外国籍児童の影響でしょうか。

- 保育課長（可児浩之君） そちらにつきましては、今の物価高とか、いろいろな経済的に苦しい中で、両親とも働く方が増えていますので、預け先が保育所へシフトしていくということが1点あります。
- 教育長（堀部好彦君） これは、だから外国籍児童に限らずということですね。
- 保育課長（可児浩之君） そうです。

あともう一点大きいのは、令和元年に保育料無償化が実施されたことです、今まで保育料は、保育園のほうが高く、幼稚園の保育料のほうが安かったため、一定数は幼稚園に行っていたんですが、無償化になったことで、差がなくなりました。また、保育園のほうが小さいときから預けられることもあって、そこから、令和元年から幼稚園のニーズが減ってしまって、さらに今の物価高で加速化している状況です。

- 教育長（堀部好彦君） 分かりました。

ここには触れられてはいないんですけども、きっと学校教育と同じで課題山積かと思うんですけども、幼児教育についても。その中で、教員不足と同様に保育士不足ということがあるのではないかと思うんですけど、この計画の中に保育士の確保とか、その辺りについては何か言及されているところはありますか。

- 保育課長（可児浩之君） 子ども・子育て会議の中でも、委員からぜひ保育士確保の施策を明記してほしいという要望があったんですけども、一市町村でできることが難しく、学生のときに市町村の奨学金制度を使って、資格を取った子が、市内の保育園

に5年間勤めてもらえれば、その奨学金は返さなくていいですという仕組みをやっている自治体があったり、あとは、市内に勤めている保育士用の宿舎を確保したり、そういうようなことで困り込みをする市町村もあるんですけど、実際の効果はなかなか難しい。やはり報道等で不適切保育だとか、保護者の方の対応だとか、とても責任の重い仕事で、そもそも今大学に保育学部があっても、定員の半数も集まらない状況であると聞きますし、仮に保育士の資格を取られても、就職先は違う業種に就かれる方が多いのが現状です。

そういった中で、可児市が、申し上げたような助成制度をやっても、なかなか実際に人が集まらない。他市の状況を聞いてもそういう状況ですので、これは一市町村で手に負えるレベルではない。国が抜本的な仕組みを改善しないと難しい。ただ、子供の数が全国的に減ってきていますので、保育士の方も一定数余るといった市町村も中には出てきています。今私ども公立園で例えば会計年度任用職員を募集すると、令和5年なんかは年中募集していてゼロ人でしたが、今は募集すると一定の応募がありますので、少し状況は変わってきたかなと感じています。

- **教育長（堀部好彦君）** 本当に大きないろいろな課題を抱えてやっておられるんだなということを改めて思います。ありがとうございます。

ほか、よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

では、幼児の子育て支援事業が充実することが小・中学校教育にも直結するかと思いますので、連携を取りながら頑張っていきたいと思います。本当によろしく願います。ありがとうございました。

では、この件につきましては報告のとおりということでよろしく願いをします。ありがとうございました。

#### 各課所管事項

- **教育長（堀部好彦君）** では、続いて各課所管事項です。
- **事務局長（水野伸治君）** よろしく願います。

私のほうからは、議会の関係で御報告をさせていただきます。

先月28日から12月議会が始まっておりますので、一般質問、委員会について御報告をさせていただきたいと思います。

一般質問のほうは、教育委員会の所管としては3人の議員から御質問ございました。

松尾議員から、移動支援という形で、熱中症対策が1点、スマイリングルーム、小規模特認校、この3点において通学における移動支援拡充の可能性ということで質問がございました。

答弁としましては、熱中症対策としては4キロメートルを超える児童につきまして、気象条件ですとか、年齢による体力差を考慮しながら、他自治体の事例を踏まえて現在検討中である旨を答弁しております。

スマイリングルームにつきましては、移転した後も児童・生徒の通学手段に大きな変化がなく、不便になったという意見も出てきていないこと、また小規模特認校につきましては保護者の責任と負担による通学というのが就学条件でございますので、また県内

ほかの自治体につきましても同様の条件であることから、スマイリングルーム、小規模特認校どちらについても、現在のところは教育委員会としては移動支援を考えていないと答弁しております。

ただし、スマイリングルームにつきましても、まだ坂戸のほうに移転して1年ほどです。今後とも長期的に注視していくことを申し添えております。

2人目の前川議員からは、学校での熊対策と安全確保についての御質問がございました。

教育委員会としましては、国や県の通知文書によりまして、各学校の実態に応じて熊出没に対する学校及び登下校中の安全対策の実施を依頼しております。また、市の担当部署でございます農林課と連携しまして、熊への対応を危機管理マニュアルに追記することも進めていくことを答弁させていただきました。

3人目の野呂議員につきましても、学校での落雷対策ということで質問がありました。学校付近や校区内の気象状況を常に注視しており、落雷や急激な気象状況の変化が予測される場合は屋外活動の中止を、下校時であれば、学校待機や保護者への引渡しなどを判断し、安全確保に努めております。市の教育委員会では、まず教職員が落雷の危険回避を行えるよう指導し、その上で児童・生徒自身が危険を察知して適切な行動ができるように指導している旨、答弁をさせていただいております。

続きまして、教育福祉委員会がありましたので、こちらも酒向委員と田口委員の2人からコミュニティ・スクールの現状と熱中症対策を進めている、みまもりオアシスについて質疑がございましたが、こちらは学校教育課長のほうから現状について説明をさせていただきました。

私のほうからは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育総務課長（下園芳明君）** では、私からは2点、お願いします。

先ほど来、話もありましたが、1点目につきましては、12月7日に行われました教育委員会表彰についてでございます。28名8団体の表彰、また昨年度から創設しました「笑顔の“もと”」奨励賞につきましては8名13団体の表彰をさせていただきました。私のほうからも、御協力いただきありがとうございます。お礼を申し上げます。

2点目です。兼山小学校の小規模特認校の申込みの状況でございます。12月1日に申請を締め切らせていただいております。3名の申込みがありました。皆さん来年度の1年生でございます。現在、順次面談を実施しているところです。

報告のほうは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **学校教育課長（木村正男君）** お願いします。

前回の会議以後の動きをお伝えさせていただきます。

まず、学級閉鎖です。前回もかなり広がっているとお伝えしましたが、今結局のところでいくと、16校中の14校で学級閉鎖がありました。学級数は58学級、かなり多くの学級の閉鎖がありました。学年閉鎖は、前回もお伝えしたように、1学校1学年でありました。理由は、ほとんどがインフルエンザによるものだと聞いております。現在閉鎖している学級は4学校の5学級、土田小学校と広見小学校、帷子小学校、今渡北小学校が

2学級という小学校で今中心になっています。さらなる感染拡大を防ぐように、各学校には注意喚起して回っているところです。

続いて、学校行事です。12月9日から10日にかけて、帷子小学校5年生が宿泊研修に行ってきましたが、これで全小・中学校の宿泊を伴う行事は全て終わりになります。大きな事故やけがの報告は特に聞いてはいなく、終わっていると聞いていますので、無事ではよかったと思っているところです。

今現在、あと残り1週間で冬休みに入るのが各小・中学校の状況です。各学校とも長期休みの過ごし方について、子供たちや各御家庭に伝えていく1週間となるかなあと考えております。

また、9月議会の補正予算で認めていただきましたので、新たに開設した校内教育支援センターを居場所として見つけた子供たちをはじめ、本市ではこの秋口から冬にかけて、不登校の児童・生徒数は例年に比べると減りつつあります。詳しいことは、またあと担当から述べると思いますが、可児川苑の校外教育支援センターに通う児童・生徒も含めて、冬休み明けに元気な様子で学校やセンターに通うことができるように、各学校においては冬休み直前や冬休み明け直前に様々な働きかけを今しておるところですが、それをまた続けていくようにと伝えているところという時期になっております。

学校教育課は以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育研究所主任指導主事（石黒智子君）** お願いします。

教育研究所からの資料がございますので、御覧ください。

主に3点お伝えします。

1ページの1番には教育実習について書いてあります。本年度も教育実習がほぼ終了しました。どの実習協力校も、実習生に対して丁寧に指導しております。資料には、岐阜大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜医療科学大学、愛知教育大学について記載しております。本年度の振り返りをして、次年度に向けて各大学とも協議してまいりたいと思っております。

続きまして、2ページの2番を御覧ください。

「笑顔の学校」公表会についてです。公表校の2校とも、子供たちの姿を通して公表校の考える「笑顔の“もと”」を知り、どんな手だてで「笑顔の“もと”」を育てているのか発表してもらいました。また、ほかの各学校からも、その実践から学んでいただくとともに、自校の「笑顔の“もと”」について成果と課題を明らかにして、可児市が目指している特色ある教育活動について学びを実感することができました。

3ページの3番に、授業改善サポートチームについて載せております。

公表会では、振り返りの視点2として、各校の研究のまとめをしてもらっております。その振り返りの時間を有意義にするために、公表会前に授業改善サポートチームのメンバーで、各校でどのようなまとめの会にするのかを交流しました。その様子が、3ページの真ん中の写真です。授業改善サポートチームでの交流が、各校の研究推進や授業改善の支援に学ぼう、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

2ページ、3ページの下の部分に一部感想やまとめを記載しております。4ページにも書かれています。

また、教育委員の皆様には公表会にも御参加いただき、心温まる感想をいただき誠にありがとうございました。

私からは以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。
- **学校給食センター所長（後藤道広君）** 学校給食センターからですけれども、12月議会のほうで、給食食材費の補正予算のほうを上げさせてもらいました。今回2,500万円の補正予算になりますけれども、当初予算から7,000万円の物価高騰分がつけてありますので、合わせて9,500万円の高騰分となったところです。

給食センターのほうからは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。  
今、各課からお話がありましたが、御質問、御意見はございますでしょうか。  
よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

ありがとうございます。

#### 委員からの提案協議事項

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、その他に御質問もないようですので、次に教育委員からの提案協議事項についてを議題とします。  
何かありますでしょうか。  
よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

#### その他

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、次にその他に行きます。  
次回の日程等です。
- **教育総務課長（下園芳明君）** 次回会議の日程についてですが、年明け1月22日木曜日の午後2時からということでよろしくお願ひします。場所はここ、市役所4階第3会議室です。  
その次の2月の日程につきましては現在調整中でございます。よろしくお願ひします。  
以上です。
- **教育長（堀部好彦君）** それではよろしくお願ひします。  
では、このまま続けてもよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

ありがとうございます。

これより会議を非公開とします。

（以下非公開）

（以上非公開）

## 閉会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） それでは、以上で全て終わりましたので、これにて教育委員会会議を閉会します。ありがとうございました。お疲れさまでした。

閉会 午後 3 時 20 分